

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (中国)	良く なっている  やや良く なっている	通信会社（工事担当）	お客様の様子	・客の様子から景気が良い。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	来客数の動き	・観光客数が増加し、売上も増加している。ただし地元客はほとんどいない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・梅雨時期に入り、野菜価格が不安定である。
		コンビニ（副地域ブロック長）	販売量の動き	・米国大統領訪問や地元プロ野球チームの活躍などで当県が注目され、県外からの客が増加している。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価は伸びている。
		家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・夏商戦が始まりボーナス時期でもあるため好調である。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・月末に開催した男女混合戦で売上が十分に確保できている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街がリニューアルされたが、まだ認知されていないため、売上が伸びず、来客数も以前とあまり変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客単価が低下しており、高額商品の動きが悪い。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・今月は雨の日が続き、来客数が減少したものの、株主総会に向けた役員異動に関する注文が多く、全体としての売上は横ばい状態である。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	お客様の様子	・来街者数は少なく、今後も増える見込みはない。駅前の大型店エリアに人が流れてしまい、特に商店街を歩く学生がここ数年で大幅に減少している。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・低調な状態が続いている。地元での売上は減るばかりであるが、県外と海外での売上で前年を維持している。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・来客数と購入金額は低調なまま推移している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・6月の売上はほぼ前年並みの見込みである。化粧品は好調を維持しているが、ミセス婦人服は不調が続いている。催事が好調だった婦人服飾、貴金属は前年売上を上回っている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・クリアランスセールは昨年のみ9月8日スタートであったが、本年は例年通り7月1日スタートとなり、6月にプレクリアランスセールがスタートした。昨年の状況から判断して、今年は売上見込みをクリアできると考えていたが、前年クリアがやっとという状況である。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・熊本地震以降、客の購入姿勢は慎重になっている。物産展は集客できているが、購入単価はそれほど高くないし、ギフト関連でも単価と件数が減少している。今月は商品を絞り込んで購入する客の姿勢が特に目立つ。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・販売量では精肉、鮮魚が前年を若干下回っているものの、金額ベースでは前年並みである。青果をはじめ加工食品やパン系の日配物は1～2%前年を上回っている。
		スーパー（管理担当）	来客数の動き	・客単価は微増しているが来客数は減少し、売上は前年並みである。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・本部の政策や店舗で仕掛けた売込み商品により先月と今月は客単価が上昇している。売上は前年より1～2%伸びているが、来客数がマイナス1%の状況であり、これを増やさなければ今後は厳しい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数がやや減少傾向であるが客単価がやや上向きなため、景気はあまり変わらない。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・賞与の時期であるが、客の消費に対する姿勢は厳しく、必要な商品以外は買わない。		
家電量販店（店長）	単価の動き	・客単価が低下している。		
乗用車販売店（総務担当）	来客数の動き	・販売部門、整備部門共に来客数が増えてこない。		
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・これという動きはなく、今まで以上の営業努力によって前年並みを維持できている。		
その他専門店〔和菓子〕（経営者）	単価の動き	・来客数は増加しているものの単価は下落している。		

その他専門店 〔時計〕(経営者)	販売量の動き	・将来への不安から、必要な商品以外に消費者の購買意欲が伸びない。	
一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・テレビ番組で店が取り上げられて以降増えていた来客数は、3か月経つと徐々に元に戻ってきているものの、以前より売上は良い。	
スナック(経営者)	来客数の動き	・当県で暴力団の抗争があり、関係事務所が近いため客があまり出てこなくなり、景気が良くならない。	
その他飲食 〔サービスエリア内レストラン〕(店長)	来客数の動き	・サービスエリア沿線の高速道路の交通量が減少しているため来客数が少ない。	
観光型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・夏休み前とあって、今月の予約は動きが鈍い。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前年と比べて数字に変化はない。	
都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・インバウンドの宿泊や4月からのデスティネーションキャンペーンでの集客で、市内の消費需要は高まっており、景況感是好調であるが、大手自動車メーカーの燃費不正問題による地元自動車産業への影響や、海外の政情不安などの影響で、個人消費動向はやや停滞している。	
都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・宿泊はインバウンド客数が減少しているが、販売室数に変化はなく室単価は上昇している。レストランは来客数が減少傾向にある。	
旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・九州地区は熊本地震の影響で旅行需要が減少し、参議院議員選挙、円高なども影響し良い材料がない。	
旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・9月以降の受注が前年同期を下回っている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・運転手が減少している。また売上は運賃値上げ分を入れても前年の97%である。	
通信会社(総務担当)	単価の動き	・市場の物品価格にほぼ変動はない。	
通信会社(企画担当)	お客様の様子	・仮想移動体通信事業者に対する卸しの販売動向は変わらず、市場からの堅調な反応が続いている。	
テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・梅雨に入りイベント等も少ない時期であることから、来客数が少ない。	
テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・入館者数、商品販売高共に微減で推移している。	
美容室(経営者)	販売量の動き	・ここ1年ずっと売上と来客数が伸びない。	
設計事務所(経営者)	お客様の様子	・展示会等への来場者数に変化はなく、消費税率引上げの延期を受けて変動が少ない。	
設計事務所(経営者)	お客様の様子	・好転の様子は全くなく、安値発注が続いている。	
設計事務所(経営者)	お客様の様子	・消費税率引上げが先送りとなり、駆け込み需要がなくなったことはあるが、地震の不安感から住宅の耐震に関心が高まっている。	
設計事務所(経営者)	来客数の動き	・戸建住宅の引き合いが低調な状況が続く。住宅以外の建物も建築費の高騰で先に進めない。	
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新築注文住宅のみならずリフォーム工事の受注も好調であり、依然として慢性的な人手不足である。	
やや悪くなっている	商店街(理事)	来客数の動き	・セール前で需要が低下している時期であり、消費を盛り上げる要素がない。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・前月同様に客の消費意欲は低く、高額品の販売が特に厳しい。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けから観光客数が減少し、地元客は収入が増えないのに物価の値上がりもあって財布のひもが固い。
	商店街(代表者)	単価の動き	・夏物のバーゲンに入っているが、売上が全く伸びない。客の購買行動は非常に慎重で、デフレ傾向が続いて今より安くなるのではないという期待が影響している。まだまだデフレは続く。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・6月中旬以降、客が後に始まるクリアランスセールを明らかに意識した買い方になっている。すぐに必要ないものは、よほど大きな動機がなければ7月のセールまで待つ傾向が顕著に表れている。

百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・父の日ギフトの売上が悪く、また7月の参議院議員選挙を控え、お中元ギフトも一向に盛り上がらない。婦人服もブラウスやカットソーなどの単品購入が中心で、客単価、平均単価ともに落込んできている。依然として消費者の厳しい購買姿勢が継続している。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・食料品は前年並みに推移しているが、衣料品やUV雑貨の動きが悪く、先行セールに入っても衣料品は盛り上がり欠けており、お中元の動きも選挙がスタートするとやや失速気味になっている。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月は来客数が前年の103%で、買上率が前年の91%程度となっており、大きく乖離している。夏のセールが五月雨的にスタートしているが、アパレルを中心に状況は芳しくなく、お中元商戦がスタートしても厳しい状況となっている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・100万円以上のラグジュアリーブランド商品や美術品が売れず、かなり苦戦しており、来月も安心できない。
百貨店（人事担当）	来客数の動き	・店全体の来客数が減少しており、お中元商戦が始まっても客足が伸びない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価は徐々に低下している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・客の買上点数が増えない。必要な物だけを購入する客の動きに変化はなく、この先も期待できない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前は販売量が前年の101%、単価は103%で、売上が前年の104～105%であったが、今月は販売量が99%、単価は102%で、売上は前年の102%前後で推移している。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・客単価は横ばいであるが、売上は低下し来客数も減少してきている。
スーパー（財務担当）	単価の動き	・大手自動車メーカーの生産停止により、下請企業だけでなく広範囲に影響が出ており、節約によって客単価が下落し、来客数が減少している。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・今月は父の日があったが、客単価が非常に低く、売上が前年の64%である。英国のEU離脱問題の話題が客から聞かれるようになってきている。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・京都の織元が後継者不足などの理由で辞めるところが増えており、良い商品ができなくなっている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客は単価の安いものを中心に購入している。
家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・前年と比べて来客数に変化はないが販売量が減少している。
乗用車販売店（店長）	単価の動き	・熊本地震の影響はほぼ解消されて販売台数は前年並みであるが、販売単価が非常に低く、高額車両は売れず、収益計画目標の80%である。サービス在庫台数も前年並みであるが、単価は前年の90%である。
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・客に元気がなく、生活用品の値上げや所得の減少で購買意欲が低い。
その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	販売量の動き	・施設全体での来客数に大きな変化はないが、購入につながる商品力の低下、接客スタッフの人員不足が販売量に響いている。目的買いの客が減り、購買意欲が以前より低下してきている。
高級レストラン（宴会サービス担当）	来客数の動き	・平日の個室の予約が以前に比べて落ち込んでおり、法人関係の利用が低迷している。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の来店時間が偏っている。昼間の時間帯が多く、ディナーが減少傾向にある。利用金額も低下しており、実質給与の増加を実感していない様子である。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・来客数が前年に比べ減少している。また、土日の中心部への人の流れがかなり少なく感じる。
一般レストラン（外食事業担当）	来客数の動き	・来客数は金曜日と土曜日がやや多い状況であるが、平日が前年の81.5%、休日は81.3%である。平日の宴会売上は前年の80%台で推移しており、特にアルコール売上の前年割れが目立ち、21時以降の来客数の前年割れが続いている。
観光型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・1人当たりの館内消費量が低下している。
都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・5月はゴールデンウィーク後も大会、学会が開催されてマーケット全体が潤った。しかし6月はわずかながら学会があるものの、平日に勢いがなく停滞している。

		タクシー運転手	お客様の様子	・夜の乗客数が減少している。
		通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客は常に安いものを求めており、価格を下げられない今は全く動きがない状態である。
		通信会社（販売企画担当）	来客数の動き	・来客数が減っており、販売量の動きが鈍っている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・3か月前は年度替りによる異動があり、販売量が多かったため、今月は相対的に悪くなっている。
		テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・平日、週末共に入園者数が減少している。
		ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・国内客数は減少し、海外客数も熊本地震以降不調が続いており、このところの円高の影響もあって減少傾向にある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・暑くなってきているが、客の来店頻度に変化はない。春の異動があっても新規の客は増えない。
		住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・消費税引上げ延期に伴い、問い合わせ等が減少している。
	悪くなっている	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	来客数の動き	・若年層の客が減少している。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・今月に入り販売点数の減少が著しく、それに比例して客単価も下落傾向にあり、特売でしか集客できなくなっている。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・大手自動車メーカーの燃費不正問題で軽自動車の販売ができず、販売量は前年の80%と大きく落ち込んでいる。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・来客数は団体、個人共に少ないままである。
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は好調に推移しており忙しい。
(中国)	やや良くなっている	木材木製品製造業（経理部次長）	受注量や販売量の動き	・今年に入ってから金利政策の影響で、受注量や販売量が少し伸びている。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・AI、ロボット、モノのインターネットといった新しい情報技術のキーワードに関する客からの引き合いや説明要望の声が上がっており、新たな投資の芽が出始めている。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産量と販売量は3か月前と比べ変化がない。
		化学工業（経営者）	取引先の様子	・苛性ソーダ等化学工業薬品全般に需要の回復が見込めず、単価は低位安定しており、国内景気全体として停滞感が続いている。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・素材産業であるため、内需が拡大しないと増収は望めない。特にセメントは低調であるため、他が好転してもその影響は大きい。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向け生産に変化はなく、建設案件を製造中で多忙な状況である。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・年初以来受注額が低迷しており、前年同期比10～15%減である。
		非鉄金属製造業（業務担当）	取引先の様子	・3月のハイブリッド車販売台数は世界で前年同期比プラス15%である。国内大手も3月は大幅増加で、国内販売が好調である。また3月の電気自動車とプラグインハイブリッド車の販売台数は前年同期比プラス84%と大幅増加している。しかしそれ以外の分野は横ばいあるいは微減なので、総じて変わらない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注計画に比べ若干の減少がある。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・発注予定が遅れる物件はあるものの、引き続き予定物件の受注が順調に推移している。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・参議院議員選挙に関するパンフレットやカタログの動きが活発である。お中元や通信販売関係の荷主からの受注が順調で、発送増につながっている。今後も通信販売関係は期待できる。個人に関しては空港宛やゴルフバッグなどのレジャー関係の動きが目立っている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数は前月と同程度である。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・梅雨の影響もあって客からの受注量が平行線で推移しており、極端に変化がみられない状況である。

やや悪くなっている	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・ベースの荷動きが低調で、大手自動車メーカーの生産ライン停止の影響もあり、稼働が低下しているところも散見される。他の需要分野に大きな変化はなく、各取引先の元気がない。	
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は生産能力の60%しかない厳しい稼働状況が続いており、異動やOBとの契約終了により工場の固定費削減を行っている。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・中国経済の減速予想に振り回されている印象が強い。円高、株安、為替が不安定で設備投資へのタイミングを見計らっているが読み切れていない。	
	輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・船舶の需給バランスはますます悪化し、運賃の低下や新造船発注の激減等により、足元の仕事量はあるものの、マインドは悪化している。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	それ以外	・英国のEU離脱問題があり、今後の世界経済の先行きは非常に不安定な要素を数多くはらんでいる。それに伴い景気の悪化は避けられないものとなってくる。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・英国のEU離脱問題の影響はまだ分からないものの、マインドが低下していることは間違いない。	
	輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫貨物等荷受けはあるものの出荷が少なく、荷動きが鈍化している。	
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・取引先の社長は、個人消費が伸び悩んでいると感じている。またお中元商戦が既に始まっているが、参議院議員選挙や消費税率引上げ延期の影響からか、注文は減少している。加えて英国のEU離脱問題による円高株安の影響で、国内景気は落ち込んでいくとの意見がある。そうした取引先の様子から判断すると、景気はやや悪くなっている。	
	金融業（融資企画担当）	取引先の様子	・最近の円高による輸出環境悪化により、自動車部品メーカーは、完成車メーカーからの受注がやや伸び悩んでいる。操業は依然高水準であるが、土曜出勤も減少するなど低下している。	
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・建設業関連ではゼネコンの下請はあまり変わらないが、一般住宅を扱う工務店はやや業績が低下し、土木事業関連は受注が減少傾向にある。また製造業も受注状況が今一つ良くなっていない。
悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・5月と2月を比較すると、水揚げ数量は910tの減少、水揚げ金額は1億4,300万円の大減である。減少理由は底引き網漁、大中型巻き網漁、イカ釣り船漁の減少である。	
雇用関連	良く なっている	-	-	
(中国)	やや良くなっている	職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・一般求人では製造業を除く各主要産業で新規求人数が前年より増加しており、有効求人数は19.3%、1,010人の増加となっている。また高卒求人の受理が今月20日からスタートし、求人件数、求人数共に大幅に増加している。
	変わらない	求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・新卒採用は6月1日選考開始に伴い、内定獲得率が増加している。ただ約7割の学生は就職活動を継続する模様である。内定獲得者は52.3%と半数以上で、採用活動が最終段階に入っていることを示している。企業側が当初の予定から採用人数を増加させた動きはなく、内定辞退を見越して予定数より若干多めに採用を出している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・参議院議員選挙の影響なのか、小売店や飲食店などの人手不足は依然厳しく、時給を上げられないところは極めて深刻な事態になっている。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	周辺企業の様子	・管内には製造業の企業が少ないうえに景気の変動を感じにくく、現在は落ち着いている。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・四半期ベースでみると新規求人数の動きに大きな変化はない。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・求職者数が前月に比べて増加しており、離職者の割合も増加している。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・人材派遣や有料職業紹介の依頼は前年同月に比べて増えているが、中小企業を中心になかなか人材が見つからず、マッチングに至っていない。

	人材派遣会社 (支社長)	求人数の動き	・堅調だった求人数が、大手企業を中心に落ち込み始めている。そうした企業でも売上が低下したという話は少ないが、先行きの不透明さから新規採用に慎重になっている。ただし中小企業では相変わらず採用難が続いており、求人数の落ち込みは見られない。
	人材派遣会社 (経営企画担当)	求人数の動き	・有効求人倍率が上昇している。求人全体で量は確保できているものの、質に変化が出てきており、求職者が求める条件と求人のミスマッチが生じている。条件緩和や待遇面の精査などを通じて営業活動を進める必要がある。
	職業安定所(所長)	求人数の動き	・新規求人は夏場に向けてアイスクリーム製造の増員募集があった食品製造会社を含む製造業や、公共工事が順調な建設業が前年同月比で2割増となったほかは、多くの業種で低調に推移したため、求人全体では横ばいとなっている。
	学校[大学] (就職担当)	それ以外	・求人数は上向いているが、実生活では購買力が上昇している実感がない。百貨店においても値引き販売の早さや値引き幅の拡大が目立っている。
	学校[短期大学] (学生支援担当)	求人数の動き	・英国のEU離脱問題がどのように影響するのか心配である。
悪く なっている	新聞社[求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・有効求職者数は39か月連続で減少し改善傾向に見える。ただし大手自動車メーカーの工場生産停止に伴う官民一体となった雇用対策を進めているが、協力企業の雇用取り消し、倒産などが続き、これから拡大していく懸念がある。